

美術や漫画、広告…

「見る」ことの魅力探る

美術や漫画、広告など幅広い分野の専門家が登壇する連続講座「視覚の文化地図」が、9月～来年4月に京都市上京区の平安女学院大で開かれる。「見る」ことを「視覚文化」ととらえ、多角的な観点でその魅力を掘り下げる。

戦後を代表する京都の洋画家・須田国太郎の遺志を継いで設立された一般財団法人「きょうと視覚文化振興財団」と、京都新聞が主催。

初回の9月19日は、芥川賞作家の藤野可織さんが恩師の岸文

上京 9月から連続講座

和・同志社大名誉教授と対談し、著書の装丁について思いを語る。以降、各月の第3土曜日(来年3月のみ第4日曜日)に、元美術館長や漫画家ら多彩な講師が招かれる。

各回とも午後2時～3時半で、定員は40人。受講料は全8回で8千円。申し込みは毎月10日から先着順。同財団ホームページからダウンロードできる用紙に必要事項を記入し、ファクスで事務局0774(45)5511へ。

また、座席に余裕がある場合は、事前申し込み制により1回1200円で聴講できる。問い合わせはファクスと同番号。